



道祖神見守る 恋人の聖地の灯

12/2 恋人の聖地選定奉告祭・発表会 安曇野神竹灯

NPO 法人地域活性化支援センターから、カップルなどが訪れる観光地「恋人の聖地サテライト」に穂高神社が選定され、12月2日、選定奉告祭と発表会が開かれました。仲睦まじい男女が並んで人々を見守る道祖神が多く点在する安曇野。その道祖神が境内にあることや、自然の豊かさが評価されました。発表会で穂高光雄宮司は「安曇野の道祖神やきれいな空気や景色を全国に発信し、たくさんの皆さんに安曇野を訪れてほしい」と話しました。

また、同日の夕方から穂高神社では安曇野神竹灯が開かれ、訪れた人たちが思い思いに点火した約1万本の竹灯籠の温かい灯が冷え込んだ冬の夜の空気を彩りました。本年は昨年より2週間期間を延長して開催。南神苑には、あづみ野ぶちてらすとして、クラフトショップやキッチンカーが出店され、家族連れやカップルで賑わいました。

家族4人で訪れた多澤弘貴さん(豊科)は、「以前、インスタグラムで見て来たいと思っていた。実際に見た灯りはとても幻想的」と話し、冬の夜と竹灯籠の灯の共演を満喫していました。



味を知り、食の楽しみを学ぶ

11/14 味覚の授業

味の基本と食べる楽しみを広げる味覚の授業(安曇野調理師会主管)が堀金小学校と穂高北小学校で開かれました。両校の5学年の児童約200人が、味の基本となる味覚五感(塩味、酸味、苦味、甘味、うま味)を身近な料理から学びました。

フランス発祥のこの取り組み、市内では安曇野調理師会がボランティアで講師を務め今年で10年目を迎えます。本年度は市とJAあづみが協力し、ニンジンや大根などの地元野菜を提供しました。

作った味噌汁を食べた穂高北小学校の小林凌祐さん(11歳)は、「出汁の香りがマスクをしていてもしっかりわかった。味の感じ方がわかり自分の体の仕組みも学べた」と笑顔で話していました。

本物に触れ、生で見る出張美術館

11/22 あづみの学校ミュージアム

市内の美術館・博物館が出張し、本物の芸術作品に触れることができるあづみの学校ミュージアム(市ミュージアム活性化事業実行委員会主催)が堀金小学校と豊科南中学校で開かれました。児童たちは、美術館等が持ち寄った作品を見ながら、真剣に学芸員の説明に耳を傾けていました。

堀金小学校では、画家の山口佳祐さん(長野市)がライブペインティングを披露。学校から見える常念岳と拾ヶ堰の風景を大きなキャンパスに描き、児童たちは迫力ある筆さばきに釘付けになっていました。

安曇野山岳美術館の版画作品を食い入るように見ていた室賀湊太さん(12歳)は「多くの作品に触れ、説明を聞き、興味が深まった」と話しました。



11月27日(土) 明科高等学校生徒会

abn・八十二 ふるさとCM大賞 in NAGANO 敢闘賞受賞

受賞作品「廃線敷を行く」▶
(abn YouTube チャンネル)



県内77市町村を対象にふるさとの思いを手作り作品に込めるふるさとCM大賞 in NAGANOの最終審査会が長野市若里市民文化ホールで開かれました。当日は、県内市町村から応募された66作品の中から大賞候補にノミネートされた18作品の審査が行われました。安曇野市からは、明科高等学校生徒会の「廃線敷を行く」がノミネートされ、生徒5人が参加し敢闘賞を受賞しました。

作品が上映された後に行う「ちょい足しPRタイム」ではみずも登場し、「みんなのあづみの」に合せて踊りながら安曇野の魅力をPRしました。

参加した平沢聖弥さん(高3)は、「上位の賞がとれなく残念。最初はどうかCMをつくっていいか分からなかったが、やりながらみんなで案を出し、完成させる過程が楽しかった」と仲間との苦労を笑顔で話しました。

最終審査会の模様は、1月3日(水)16:00から長野朝日放送で放映されます。



育てたお米 昔ながらの釜で味わう!

12/9 有明あおぞら認定こども園ぬかくどご飯会

有明あおぞら認定こども園で春から取り組んできた園庭ミニ田んぼの集大成として、年長児43人が収穫した米を「ぬかくど」でたいて味わいました。

ぬかくどは、堀金地域で農業を営む浅川拓郎さん(40)が持参し、昔ながらの方法でご飯のたき方を実演。もみ殻が燃える匂いや釜から吹き出る炊飯の香りに、園児たちは興味津々な様子で見入っていました。

釜でたいたご飯をはじめ食べてという久保田淳くん(6歳)は、「ご飯がふかふかで美味しい。おにぎりにしてお家に持って帰りたい」と話し、自分で握ったゴマ塩おにぎりを美味しく食べていました。